

特集コーナー紹介



◆はるのえほん (1A 棚)



◆新生活応援 BOOK (特設2)

【新規特集】

- 児童特集コーナー (1A 棚)
  - ◆天草の絵本作家 わらべきみかさんの絵本
  - ◆ロシア・ウクライナの絵本
- 一般特集コーナー
  - ◆あの日を忘れない 東日本大震災・熊本地震記録と記憶 (特設1)
  - ◆追悼 西村京太郎さん (特設5)



■新着本紹介■

新刊の一部をご紹介します

**一般書**

- 『私の見た庄屋・永田隆三郎翁と古江村の遠い歴史』 嶋村和来
- 『それでも生きていく』 姜尚中 (集英社)
- 『肌トラブル大全』 小林智子 (WAVE 出版)
- 『いきり舞いの さようなら』 諸田玲子 (光文社)
- 『ミトンとふびん』 吉本ばなな (新潮社)
- 『獣医師が考案した 一汁一菜長生き犬ごはん』 林美彩 (Begin)
- 『肌トラブル大辞典』 田村由美 (小学館)
- 『水俣曼荼羅』 原一男 (皓星社)
- 『もう別れてもいいですか』 垣谷美雨 (中央公論新社)

**児童書・絵本**

- 『ぜんぶかわいい! 手芸クラブ』 ①~④ (あかね書房)
- 『中学ってどんなところ?』 升野伸子 (世界文化ブックス)
- 『天気を知って備える防災雲図鑑』 荒木健太郎 (文溪堂)
- 『北条政子』 山本みなみ (小学館)
- 『とらはえらい』 五味太郎 (クレヨンハウス)
- 『野菜はすごい!』 柴田書店 (編) (柴田書店)
- 『リアルおばけの脱出ゲーム!』 石崎洋司 (岩崎書店)
- 『眼鏡会議』 菊野葉子 (文芸社)
- 『やさいのがっこう いちごちゃんはやさいなの?』 なかやみわ (白泉社)

■中央図書館カレンダー■

※市内の新型コロナウイルスの感染状況によって、おはなし会などのイベントは中止になる場合があります

3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	20
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

- は休館日
- ◇しあわせおはなし会 10:30~
- おはなし会 14:00~
- 古文書学習会 14:00~
- △みずのわ読書会 10:00~

問合せ先 天草市立中央図書館  
TEL: (0969) 23-7001

市外に引っ越しする人は本と貸出カードの返却をお願いします

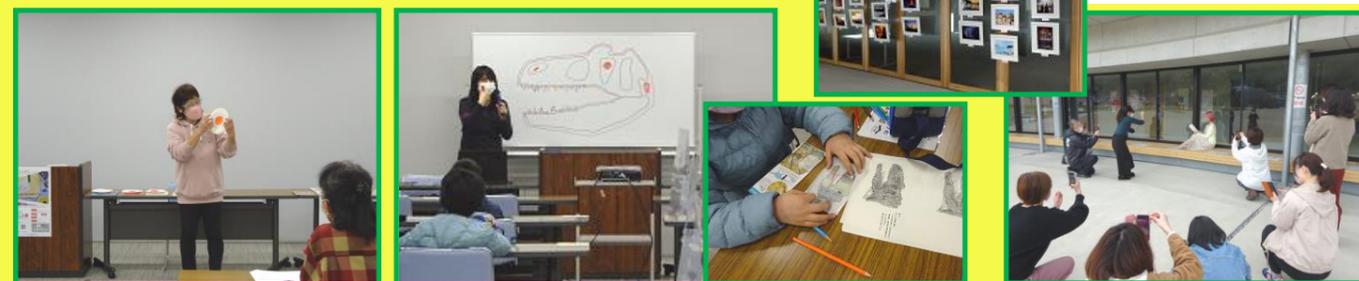
図書館の本を借りている人で、市外に引っ越しする時は、事前に本と貸出カードを返却してください。返却が済んだか心配な方は、カウンターまたはお電話でお尋ねください。また、市内の引越しても変更手続きが必要です。各図書館を利用する際に職員へお申し出ください。

移動図書館車の利用グループを募集します

市立図書館では移動図書館による巡回貸出を希望するグループを募集します。  
【対象】市内に住居または通勤する人が5人以上作れるグループ。企業の利用や施設への巡回も可。  
【申込方法】図書館窓口で申込用紙をお渡しします。記入後、窓口へ提出してください。

ご参加ありがとうございました

- おはなし小道具講座~紙皿であそぼう~ (2月20日(日)実施 ことらす会議室BC) 参加者それぞれがアイデアをふくらませ、紙皿に絵を描き、「おはなし」に合わせて紙皿をめぐったり、まわしたりしました。聴く人とコミュニケーションを取りながら楽しめるおはなし小道具! みなさんもぜひ、おはなし会や子どもとの遊びなどで取り入れてみませんか。
- ワークショップ「恐竜の復元画を描こう」(2月27日(日)実施 ことらす会議室ABC) 天草にもいたアロサウルスの骨格の図の上にトレーシングペーパーを重ね、目、鼻、耳、歯、うろこなどを描いた後、色鉛筆で思い思いの色で塗り復元画を完成! 参加した子どもたちからは「科学的、本格的にかけたからとても楽しかったです。想像力をふくらませてくれました」と感想が寄せられました。
- アマクサ・ライブラリー・カフェ「スマホ写真講座」(3月5日(土)実施 ことらす会議室BC) 天草市地域おこし協力隊の佐藤さんの「スマートフォンでの魅力的な写真の撮り方」のお話の後、100円ショップでも購入できる小物を使って、参加者各自で撮影。「写真を撮るのが楽しくなりそうです。ちょっとした工夫で、おもしろい写真が撮れる方法が知れてよかったです」と声が寄せられました。また、講座とのコラボ企画として「天草西海岸夕陽・夕景フォトコンテスト」と「第3回天草市公式 Instagram フォトコンテスト」の入賞作品がことらすで展示、多くの来館者が魅入っていました。



コラボ特設コーナー紹介 市役所などの各課との新規コラボコーナー

- ◆まちゼミ (産業政策課) (特設3)
- ◆ダウン症を理解しよう (福祉課) (特設1)
- ◆運動 (健康増進課) (特設2)
- ◆おさかなレシピ (水産振興課) (1A棚)

「一キロ先の地面がうごめいている。..まずい、波が来てる。はやく、はやく、と坂の上に立つ人が大きく腕を回す。はやく、急いで! 心臓が高鳴った。私はこのとき確かに自分の死を思った。」

『新しい星』で直木賞候補になった彩瀬まるさんは2011年3月11日、仙台駅から友人の待ついわき市へ移動する電車の中で震災に遭遇されました。その体験のルポルタージュ『暗い夜、星を数えて~3.11 被災鉄道からの脱出~』は、震災からの日々の物語を小説家の鋭い感覚で綴られています。

被災地の人たちは県外に出ると、「福島県人は毒をまき散らすな、帰れ」と言われたり、車には「汚染車」と書かれるなど..この放射性物質という見えない恐怖に国民全員が「理性的に、落ちついて、差別が起こらないよう冷静な対応をすること」が出来ない。と、彩瀬さんは書いていますが、作家の石井光汰さんは「被災者の苦痛や不安を共有できるほど私たちの社会は成熟していない」と本書を解説しています。

コロナ禍にいる私たちは、辛い思いをしている人たちと気持ちを共有出来ているのか考えました。詩人の谷川俊太郎さんは『幸せについて』の本の中で「幸せはささやかでいい、ささやかがいい、不幸はいっただってささやかじゃ済まないんだから」といい「1931年生まれのぼくは、米軍機の空襲を東京杉並の自宅で体験している世代..戦争でひどい目にあった人たちは、どんなささやかであっても平和であることの幸せを、骨身に徹して知っているに違いない」と「幸せを忘れてる幸せ」を気づかせてくれています。

ロシアのウクライナ侵攻が一日も早く終わりますよう願います。図書館で、読書で、「いろいろな幸せ」を見つけていただければ幸いです。 【文・中央図書館長】